

## 令和6年度 飯田港東防波堤復旧技術検討会（第3回）

日時等：令和7年3月14日（金）13：00～15：00（WEB方式）

### 1. 主な議事

- 第2回検討会での指摘と対応、数値解析結果、模型実験結果及び遠心実験結果の報告及び飯田港東防波堤の被災メカニズムとりまとめについて、資料をもとに検討を行った。

### 2. 主な意見

#### （1）被災メカニズム解明

- 数値解析では、地盤内の間隙水圧上昇により地盤が軟化することで支持力破壊、滑り破壊が混在した変形が確認出来た。また、地盤が軟化した状態で津波が堤体に当たると変形が進行する状況も確認出来た。
- 遠心実験の結果は、興味深い実験で分かり易い結果が得られている。
- 地震の作用により地盤内の間隙水圧は上昇したがその時点では破壊せず、その後の津波によって発生した水位差の影響により円弧すべりが生じた状況が確認出来た。
- 対策策工を考える際には円弧滑りと洗堀の両方考慮することがより安全である。

#### （2）飯田港東防波堤の被災メカニズム

- マウンド内の津波浸透流のイメージをわかりやすく補足するとよい。

### 3. まとめ

- 模型水理実験及び数値解析結果を踏まえ、能登半島地震による飯田港東防波堤の被災メカニズムについて解明。

—以上—